

2023年9月  
発行



九州大学 総務部 同窓生・基金課

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744

TEL: 092-802-2150

E-mail: k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL: <https://kikin.kyushu-u.ac.jp/>



# 九州大学基金

令和4年度

# 活動報告書

Kyushu University Fund  
2022 Annual Report

## 九州大学基金を通じて 多大なご支援を賜り、 誠にありがとうございます。

九州大学は、2030年に向けた大学の目指す姿として「総合知で社会変革を牽引する大学」を掲げ、その実現に向け、「Kyushu University VISION 2030」を策定しています。

現代社会は、気候変動や生物多様性の損失、貧困や格差、紛争や人権侵害など、複雑で困難な社会的課題が溢れ、国際情勢の変化によってエネルギーの供給不足や物価高騰なども生じ、社会・経済システムの変革、再構築が強く求められています。

多様な「知」と「人材」が集まる大学には、これらの課題解決に貢献する役割を果たすことが期待されており、九州大学もこれらの期待に応え、自治体、企業等をはじめ地域社会と共創して、様々な取組を展開していきたいと考えています。特に、九州大学の強み・特色を活かして、DX(Digital Transformation)の推進に取り組むとともに、社会的課題(脱炭素、医療・健康、環境・食料の3領域)の解決にチャレンジしてまいります。

そして、多くの学生や研究者にとって魅力ある世界最高水準の教育研究を展開する大学として、110年を超える伝統の中で培ってきた知の集積と、育成してきた人的リソースを最大限に活かし、教育・研究を一層充実させてまいります。

九州大学基金は、2011(平成23)年の本学創立百周年を機に、学内外から広く寄附を募った「百周年記念事業募金」を原資に設立した基金で、高い志を持つ学部生を支援する「山川賞」をはじめ、学生の修学や独創的活動の支援など、主に学生に対する幅広い支援に活用させていただいております。近年は、新型コロナウイルス感染症による経済的な影響で学業を継続することが困難な学生に対する支援や、ウクライナの学生・研究者が学びや研究を続けるための環境提供・経済支援など、社会状況の変化なども踏まえて予め使途を定めて募金を行う「使途特定プロジェクト」事業も展開しております。

本活動報告書は、九州大学基金による2022(令和4)年度の活動状況を皆さまにご報告するとともに、九州大学並びに九州大学基金の取組をご理解いただくために作成しているものです。

卒業生・保護者や地域の皆さまをはじめ、企業・団体等の皆さまには、引き続き九州大学基金に心強いご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023(令和5)年9月

九州大学総長  
九州大学基金本部長

石橋 達朗



令和4年度

九州大学基金

# 主な活動実績

令和4年度の主な活動実績をご報告します。

令和4年11月

## 感謝の集いを開催しました。

九大基金へ多大なるご支援を頂いた寄附者の皆さまをお招きし、令和4年11月に感謝の集いを開催いたしました。平成29年度以来の開催となり、40名の寄附者の皆さまにご出席いただきました。

総長の挨拶に始まり、九州大学基金の現状についての報告、研究者・学生からの活動報告などを行い、皆さまにご支援頂いている九州大学、積極的に活動している学生や研究者の「今」そして「これから」をお伝えし、盛会のうちに終了しました。



「感謝の集い」出席者による記念撮影

令和4年12月

## 遺贈セミナーを開催しました。

令和4年12月に、第2回九州大学基金「相続・遺贈セミナー」を西日本シティ銀行との共催にて開催し、年末の平日にもかかわらず、9組11名の方にご参加いただきました。

「遺言を活用した相続対策」をテーマとした2部構成で、弁護士の方によるご講演に加え、西日本シティ銀行様から具体的な遺言信託の流れをご説明いただき、セミナー終了後はご希望者による個別相談会を実施するなど、大変好評いただきました。



「遺贈セミナー」の様子

令和5年4月より

## 寄附者顕彰を拡大しました。

九州大学基金にご寄附頂きました皆様へより感謝の意を表するため、令和5年4月1日より新たに称号を設置し、合わせて銘板を変更することと致しました。(令和5年10月完成予定)

九州大学にお越しの際は、椎木講堂に設置した銘板をご案内いたしますので、是非お声がけください!皆さまからの貴重なご寄附と想いを頂戴し、これまで以上に本学の教育研究の高度化を図ってまいりますので、引き続きのご支援を賜りますようお願いいたします。



九州大学椎木講堂



椎木講堂に設置された銘板

# 基金全体の活動

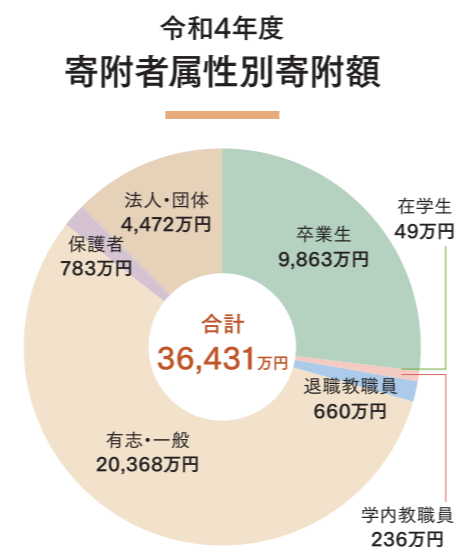
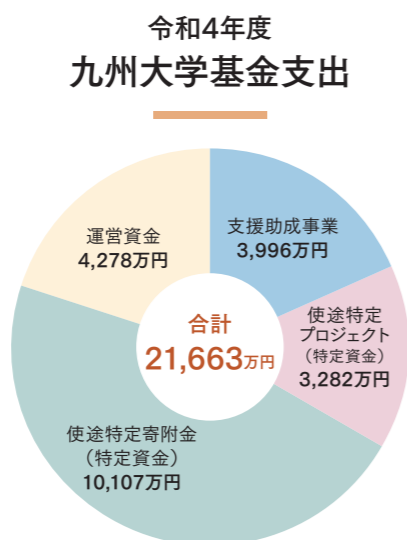
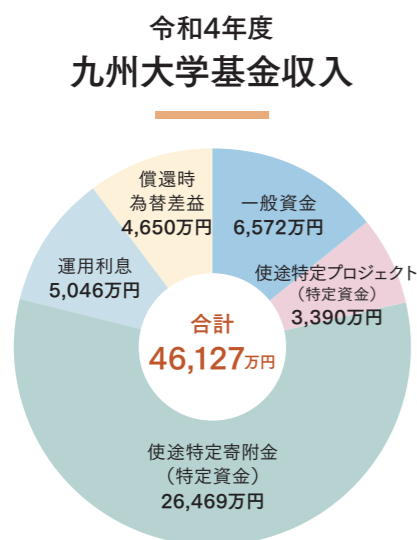
## 令和4年度 九州大学基金へのご寄附

九州大学基金は、2011(平成23)年に、百周年記念事業の一つとして、九州大学の教育・研究・診療等に対する支援とその環境の更なる整備・充実を図ることを目的に創設され、多くの方からのご寄附により支えられています。

九州大学基金では、学生・教職員に対し、年間1億円規模の支援助成事業を実施しています。

令和4年度は、**総額約3億6千万円**のご寄附を頂戴しました。

種別	件数	金額
● 一般資金	3,641件	65,715,914円
● 特定資金	999件	298,593,041円
<b>寄附総額</b>	<b>4,640件</b>	<b>364,308,955円</b>



※端数調整のため、表上の計算が合わない箇所があります。

## 九州大学基金の称号について

九州大学基金にご寄附頂きました皆様へ、より感謝の意を表するため、令和5年4月1日より新たに称号を設置いたしました。称号は前年度末までの九州大学基金への寄附累計額に応じて贈呈させていただきます。

称号	個人	法人	個人数	法人数
特別栄誉賞(殿堂入り)	1億円以上	5億円以上	10	0
特別栄誉賞	1,000万円以上	1億円以上	5	3
栄誉賞	500万円以上	1,000万円以上	6	10
特別功労賞	100万円以上	500万円以上	73	5
功労賞	50万円以上	100万円以上	82	79
功績賞	10万円以上	50万円以上	1,447	49

※2023年3月31日時点の寄附累計額を元に集計

## 九州大学基金 令和4年度 受入実績

種別	件数	金額
<b>● 一般資金</b>		
合計 3,641件		
総額 65,715,914円		
一般資金	3,641件	65,715,914円
一般寄附	1,851件	30,766,442円
九州大学に一任する	1,407件	29,468,795円
古本募金	16件	41,524円
Givingキャンペーン	367件	5,439,153円
<b>● 特定資金</b>		
合計 999件		
総額 298,593,041円		
用途特定寄附金	8件	264,690,775円
用途特定プロジェクト	991件	33,902,266円
九州大学若手研究者育成・研究支援事業基金	10件	323,000円
エネルギーの脱炭素化に向けた研究事業	3件	70,000円
九州大学ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修(SENTAN-Q)事業基金	1件	30,000円
女性研究者活躍促進プロジェクト	37件	585,000円
新型コロナウイルス対策学生支援基金	137件	3,342,416円
新型コロナウイルス対策留学生支援基金	56件	626,000円
ウクライナ学生・研究者支援基金	164件	10,216,850円
学生の自主的アントレプレナーシップ活動支援(通称S.I.P)	-	-
修学支援事業基金	260件	7,102,000円
産業数学人材育成プロジェクト	31件	471,000円
課外活動における安全対策等支援基金	5件	60,000円
ヨット部艇庫建設・活動支援基金	21件	1,428,000円
教育研究活動における安全管理・安全教育活動支援基金	6件	49,000円
九大フィルの東京公演ならびに活動支援事業	115件	3,867,000円
近代建築物の保存活用プロジェクト	13件	723,000円
総合研究博物館箱崎サテライト拠点化事業	24件	1,386,000円
伊都キャンパス植樹プロジェクト	40件	1,879,000円
九州大学デジタル資料整備事業	41件	1,065,000円
法文学部創立100周年記念プロジェクト	27件	679,000円
<b>合計</b>	<b>4,640件</b>	<b>364,308,955円</b>

## 九州大学へのご支援(大学に一任)のお願い

令和4年度  
実績

寄附受入額 **29,468,795円** 件数 **1,407件**

大学に一任頂いたご寄附はVISION2030で掲げた大学の実現に向け、研究教育の更なる高度化に活用させていただきます。

その他、地域社会との共創による活動や、ご寄附を適切に運営するための経費として活用させていただきます。

実現に向けた8つのビジョン

VISION1 ガバナンス	VISION2 DX	VISION3 教育	VISION4 研究
VISION5 社会共創	VISION6 国際協働	VISION7 医療	VISION8 財務基盤

## 研究への支援

多様な「知」と「人材」を結集し、  
「総合知で社会変革を牽引する大学」へPROJECT  
01 若手研究者育成・研究支援事業 募集期間 2022.9~2028.3

九州大学が2030年に向けて目指す姿は、「総合知」によって社会的課題の解決と社会経済システムの変革に貢献する「総合知で社会変革を牽引する大学」です。その実現に向けて、最高水準の研究教育を展開する大学への変革を進め、「次代を担う若手研究者育成」と「自由闊達な研究展開の基盤となる研究支援」を主軸とした『若手研究者育成・研究支援事業』を展開し、学術基盤研究から社会変革に貢献する展開研究まで広く研究力を強化し、国際競争力を高め、世界のトップ大学と伍する大学へと生まれ変わります。

## 事業内容

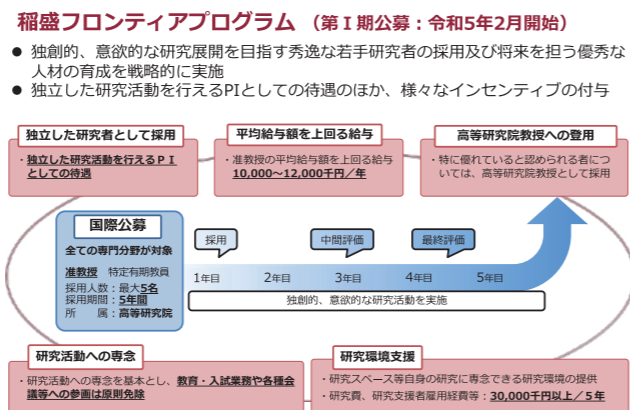
● 若手研究者育成・研究支援事業  
フローチャート

この事業は、第4期中期目標期間(～令和9年度)で総額20億円規模に及ぶものであり、大学の総力を結集して実現を目指しております。令和5年度には新たな支援プログラムとして稲盛フロンティアプログラムも設立いたしました。頂いたご寄附はこれらの若手研究者育成事業・研究支援事業で実施する各支援プログラム(フローチャート参照)に活用させて頂いております。

## TOPICS トピックス

## 稲盛フロンティアプログラム

九州大学では、新たな若手研究採用・育成制度として、独創的・意欲的な研究展開を目指す秀逸な若手研究者を採用し、我が国の将来を担う優秀な人材の育成を戦略的に実施する「稲盛フロンティアプログラム」を創設しました。そして、多数の応募の中から厳正な選考を経て、令和5年8月に、第1期プログラムの対象となる5名の研究者を候補者として決定しました。採用された研究者は、稲盛フロンティアプログラム教員として、今後5年間にわたり独立したPI(Principal Investigator)として、自身の研究に専念できる環境の中で主体的な研究活動を展開し、将来、世界の新学術を先導するトップ研究者へと飛躍することが期待されます。



## 若手研究者育成事業

各研究分野を牽引し、我が国の将来を担うトップ研究者を戦略的に輩出することを目指す「稲盛フロンティアプログラム」、国際的に活躍できる研究リーダーを育成する「国際的研究リーダー研修プログラム」を実施し、次代を担う若手研究者を育成します。

## 研究支援事業

若手研究者に必要なスキルの習得、競争的研究費獲得に向けた支援、異分野融合グループ研究や国内外の大学・研究機関との共同研究支援など、幅広い研究ニーズに対応した研究支援プログラムを提供し、自由闊達な研究を支援します。

PROJECT  
02 エネルギーの脱炭素化に向けた研究事業

目標金額	3,000万円
募集期間	2022.9~2025.3

地球温暖化を抑制し気温上昇を1.5℃以下に抑えるためにはCO<sub>2</sub>を主体とした温暖化ガス排出量を2050年までに実質ゼロにすることが必要とされています。本事業では、エネルギーの脱炭素化に向けて従来になく新しい成果の創出を目指し、異なる専門性を持つ研究者が協力し合う先進的な集学的プロジェクトとして①エネルギーの脱炭素化に役立つ材料の研究、②脱炭素化を実現するエネルギーシステムの研究、③持続可能なエネルギー社会を作るための研究、の3つのクラスターを形成し研究を実施しており、ご寄附は各クラスターの事業推進に役立っています。

## TOPICS トピックス

## 九州大学エネルギーウィーク2023

「エネルギー分野の英知が垣根を越えて結集:総合知で切り拓くエネルギーとエネルギーセキュリティの未来」をテーマに、エネルギーに関するシンポジウム「九州大学エネルギーウィーク2023」が、令和5年1月30日(月)から2月3日(金)にわたり開催されました。1月31日(火)の「Q-PITフォーカストセッションB」では、エネルギー研究教育機構・松崎教授より本機構における脱炭素エネルギー研究について概要説明が行われた後、脱炭社会の実現を目指し、自然科学系と人文科学系の分野の垣根を越えた研究を実施する学際研究チームであるモジュールより、各モジュール研究の概要および進捗について報告されました。現地参加およびオンライン視聴を含め、約90名の方々に聴講いただきました。

PROJECT  
03 ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修(SENTAN-Q)事業基金

目標金額	2,000万円/年
募集期間	2023.1~2026.7

SENTAN-Qでは、優れた研究業績を有する将来有望な本学女性ならびに若手教員約10名を毎年選出し、世界トップレベルの研究教育力を実践的に身につける機会を2年間徹底的に与え、世界と伍して戦える真に実力のあるダイバーシティ・スーパーグローバル教員として、大学と社会を変えていく人材を育成します。SENTAN-Qは全部で6つのSTEPとなっており、各研修生が大学がバナンスやダイバーシティ・インクルーシブ教育、留学生への英語での実践的研究指導、8週間以上にわたる海外での実践的教育・研究指導に取り組みます。基金では一人約200万円、合計年間2千万円の支援を目指しています。

## TOPICS トピックス

## ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)報告シンポジウム

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(調査分析)報告シンポジウム「女性活躍指標に基づく女性研究者活躍促進に関する国際調査」を令和5年3月24日(金)に本学椎木講堂コンサートホールにてオンラインとの併用で開催しました。同シンポジウムは、SENTAN-Qの中間報告を兼ねて開催し、第二部において、本学玉田副学長によるSENTAN-Q事業説明のほか、3名の研修生がこの研修で得られた経験や成果、今後の目標などについて報告しました。



## TOPICS トピックス

## 令和4年度ワーク・ライフ・バランスセミナー

令和4年度ワーク・ライフ・バランスセミナー「親の介護、僕らはどうする?ケア役割に向き合い、分かち合うためのオトコの作法」を開催しました。大阪公立大学大学院文学研究科の平山亮准教授に講師をお願いし、親の介護に直面した場合の傾向について、国内外の研究をもとにご講演いただきました。性別による向き不向きなどはなく、それぞれが出来ることから介護に参加することが重要であると認識する良いきっかけとなりました。



## 学生への支援

PROJECT

## 01 九大生応援基金（一般寄附）

一般寄附では、**山川賞**・**海外派遣**・**課外活動支援**の3つの支援事業を実施しています。

※令和5年度より名称を「一般寄附」から「九大生応援基金」に変更いたしました。

令和4年度  
山川賞  
受賞者



次代を担う若者を育てる

## 山川賞

山川健次郎初代総長の名を冠した賞

支援実績 計32名

目的

九州大学教育憲章が指向する、人間性、社会性、国際性、専門性に対して優れた志を持ち、学業成績が優秀な学部学生を選考し、次代を担う若者を育てること

内容

学業を助成する奨学金として年間100万円を学部卒業年度まで給付

令和4年度  
受賞者

2年次生

7名

3年次生

4名

合計 11名



受賞者の  
声

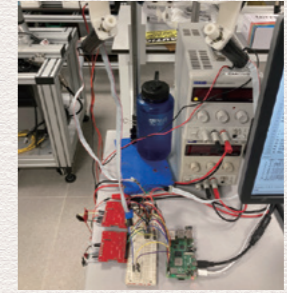
## 生涯かけて取り組みたいこと

はば  
幅

ゆうと  
優斗

工学部 機械航空工学科  
● 支援期間: 令和4年度~令和5年度

令和4年8月より交換留学でシンガポール国立大学のControl and Mechatronics Laboratoryにて医療ロボットの研究をさせていただきました。ロボット工学の研究に着手するのは初めてで、最初はとても戸惑うことが多く、つまづくことも多かったのですが教授や先輩方にたくさん教わることで徐々に慣れてきました。自分が行っている研究はダ・ビンチなどでおなじみの手術ロボットの挿入機構の改善です。手術ロボットの挿入機構は、リアルタイムで針の先端が今どこにあるのかを知る正確性、また様々な方向に無理なく動くことができる可動性が必要になりますが、これらの2つのポイントをより良く改善するための研究を行っています。この研究を経て、自分が理想とする図形をモデリングする技術やコーディングの技術などたくさん身につけることができるようになったと感じます。



研究の様子



留学の様子

今後自分が行うと決めていることはサマースクールへの参加と研究インターンです。サマースクールにおいては今回の交換留学の研究で得られた知識などを、少し異なる分野においてどれだけ活かすことができるか、ということを試すのに絶好の機会であると考えます。また、研究インターンにおいては、研究室にvisitとして参加させていただくことでアメリカのトップ大学、企業がどのような素晴らしい研究を行っているのか、自分が将来このような素晴らしい研究ができるようになるためには何が必要で、今何が足りないのかを自分の目で確かめるための機会としたいと考えます。

また、九州大学とシンガポール国立大学の授業で学んだ基礎をもとに、正しい研究を行えるようになりたいと思います。留学中に研究に触れさせていただく中で、授業で学んだ基礎の重要性にとても強く、気付かされることが多々ありました。これらの基礎をしっかりと固めつつ、自分が解決したいことは何なのかを明確にし、常にこれらのことを意識することで素晴らしい研究を行うことができると思います。

将来の展望は、アメリカの大学院でPh.D.を取得する、そして将来日本の大学の教授になることです。自分はロボット工学の専門家になることで、いつか日本のロボット工学の発展に貢献できる人物になりたいと考えております。

受賞者の  
声

## 必要とところに必要なものを

いしだ  
石田

だいすけ  
大祐

医学部 医学科  
● 支援期間: 令和2年度~令和5年度

昨年度はいくつか貴重な体験することができ、非常に充実した1年間でした。

一つ目は、国境なき医師団の李理華医師（現在は飯塚病院産婦人科医）との対談です。国境なき医師団が紛争が続く地域で十分な医療を受けられずにいる人々へどのような支援をしているのか、実際の難民キャンプでの医療体制や医師団の現地での生活はどのようなになっているのかなど、インターネットで調べても出てこないようなことまで詳しくお話を聞くことができました。また、治療だけでなく現地の医師や医療スタッフへの教育も兼ねているということを知りました。「日本とは全く違う環境で、臨機応変に対応を求められることも多く、分からないことは現地スタッフに教えてもらいながら最適な治療法を探る。日本とは勝手が異なり、やるしかない」と割り切らなければならない場面もたくさんある。」と李医師はおっしゃっていました。そのような現場ではいかに柔軟に対応できるかが大切なことなのだと身にしみて感じました。将来アフリカなどの日本とは全く異なる地で働いたときにどのような過酷な状況でも対応できるような体力、臨機応変に対処できる冷静さを持った医師になりたいと思いました。

二つ目は徳之島診療所というところで地域医療の実習をさせていただいたことです。徳之島診療所で医師をされている徳田先生のもとで、島の患者さんの外来診察、入院患者の診察、島の中で移動が難しい患者さん方の訪問診療など3日間非常に密な実習をさせていただきました。外来診療では限られた時間の中で多くの患者さんを診察しながらも、たわいもない会話で盛り上がりつつ地域住民との関係性を築いている姿は非常に印象に残りました。ハブ咬傷や紫外線による光線眼症など島特有の疾患も多く見ることができ、一瞬一瞬の時間が学びでした。訪問診療では、患者さん一人一人異なる環境で生活療養されており、診療はもとより生活面でのアドバイスやその他のサービス（訪問介護など）の利用状況をしっかりと把握し患者さんが本来の生活に近づけるよう広くサポートしているということを知りました。地域住民と信頼関係を築きながら医療を行うというのは非常にやりがいのあることだと思います。医師として患者の病気を治すだけでなく、個性豊かな地域住民たちからエネルギーをもらいながら働くということにも携わりたいと思いました。また、何となくこの離島実習では数に限りある医療資源を効率よく滞りなく使う難しさも実感し、必要な医療をいつでも受けられる社会作りをしなければならないと思いました。



徳田医師との訪問診療

学生の国際性を育てる

## 海外派遣

## 海外留学渡航支援 支援実績 73件

学生が、海外の大学等で学ぶことにより、語学力・コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・行動力を磨き、異文化に対する理解と国際感覚の醸成を図り、グローバルに活躍できる人材として社会に貢献できるようになることを目的とし、渡航費を支援しました。

## 国際会議等参加支援 支援実績 31件

学生が、国際会議等において研究発表するための機会を増やすことにより国際感覚の醸成を図ることを目的とし、国際会議等に論文を提出し、研究成果を発表するための渡航費等を支援しました。



支援を受けた学生の声

## シンガポール国立大学に留学

つきおか 月岡

あおい 葵

経済学部  
● 留学期間：令和4年8月1日～令和4年12月3日

私は留学前後で自分自身に大きな変化を感じました。学習面では、シンガポールの多文化共生社会について理解を深めるとともに、母国である日本についても振り返ることができました。ある授業では日本文化についてクラスメイトにプレゼンテーションを行う機会を特別にいただき、神道についての発表を行いました。発表の準備をするにあたり日本文化への理解不足に気づいたり、海外と比べた日本文化の独自性を見つけたりして、日本について理解を深めました。また現地の学生の学習への参加意欲、意見を表明する積極性に刺激を受け、自分もより積極的に学習するようになりました。今後の学習において、現地で得た姿勢を持続向上させたいです。加えて精神面では、現地での生活を通して寛容さ・受容力を強化しました。宗教、人種、文化が混じり合ったシンガポールの多文化共生社会の日々の生活の中で、新しいものや自分と異なるものに触れる機会を多く得ました。そのようなものに対して、自分の固定観念や経験を基に拒絶を感じる事が渡航前にはありましたが、留学を通じて自分の知らないものも理解しようとする姿勢を磨きました。これこそ私が留学で学びたかったことの一つであり、シンガポールを留学先に選択した主要な理由です。またシンガポール社会に関する授業を履修し、想定していた以上の多様性を知ることができました。すなわち、宗教・人種などの多様性だけでなく、経済格差や市民と移民の立場・社会福祉の差などシンガポール社会が現に抱えている多様性及び格差を学びました。今回の留学では渡航前にたてた目標以上の学びを得ることができ満足しています。これは実際に現地に渡航して、勉強・生活したからこそ実現したことであり、オンラインや日本国内での学習では得られなかった経験であると考えます。今回渡航ができたこと、渡航を可能にするためにいただいた全ての支援に感謝しています。



日本文化についての単独プレゼンテーションの様子

課外活動など学生の創造と挑戦を支える

## 学生の活動支援

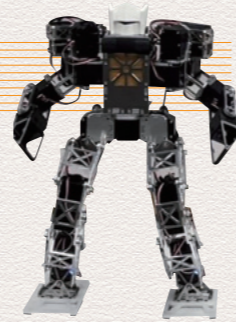
## 課外活動支援

支援実績 14団体

サークル等の活動を活性化するため施設整備等を支援しています。令和4年度は、大学公認サークル14団体に支援を実施しました。

## ヒューマノイドプロジェクト

九州大学ヒューマノイドプロジェクトは、二足歩行型ロボットの製作を通してものづくりの技術、楽しさを追求するとともに、二足歩行ロボットバトルの全国大会である「ROBO-ONE」に出場し、優勝することを目標としている団体です。1機体の製作には数十万単位の費用が掛かります。特に高価な部品がサーボモーターであり1個当たり1～3万円ほどで、1機体につき平均20個以上使用します。予算内で購入できる数には限度がありますので、過去に使用していたものを再利用している状況ですが、サーボモーターは非常に壊れやすい精密な部品のため、しばしば激しいバトルの末、使用不可となってしまいます。今年度は、ご支援により機体を製作するのに十分なサーボモーターを購入することができ、新機体の製作を進めることができました。二足歩行ロボット製作の活動は全国に広がりつつありますが、まだまだ知られていないことが現状です。精度の高い二足歩行ロボットを作り成果を収めることは、さらなる技術発展につながっていくと考えます。これからも多くの方に二足歩行ロボットの魅力を伝えることができるよう努めていきたいと思ひます。



▲機体名 GAIA



YOKA口祭り集合写真

PROJECT

## 02 「新型コロナウイルス対策学生支援基金」および「新型コロナウイルス対策留学生支援基金」

令和2年に募集を開始いたしました九州大学基金の使途特定プロジェクト「新型コロナウイルス対策学生支援基金」および「新型コロナウイルス対策留学生支援基金」へ、多くの皆さまからご支援・ご協力を賜わり、誠にありがとうございました。いただきましたご寄附により、コロナ禍において経済的困難が継続し、学業を断念せざるを得ない状況に苦しむ学生668名に対し、「学業継続給付金」として1人あたり10万円(計6,680万円)の支援を実施することができました。これもひとえに皆さまお一人一人の学生への温かい想いによるものと、改めてご支援をいただいた方々に心より御礼申し上げます。「新型コロナウイルス対策学生支援基金」および「新型コロナウイルス対策留学生支援基金」は、昨今の社会経済活動の状況等を踏まえ、令和5年3月をもちまして寄附の募集を終了させていただきましたのでご報告いたします。

## 学業継続給付金 受給者の声

この度はご支援いただきありがとうございました。アルバイトがままならない状況にありましたが、ご支援によって生活費や学問を続けられる環境を整えることができました。心より感謝申し上げます。



教育学部 3年

学業継続給付金を支援していただき、誠にありがとうございました。今回支援していただいた給付金は、主に教科書代として使わせていただきました。専門書の一冊の金額はかなり高く、必要ではあるけれども購入をためらうものもあったので大変助かりました。しっかりと学習して自分のものになりたいと思ひます。



歯学部 4年

## 寄附受入実績

件数 1,692件

金額 70,702,447円

## 支援内容

コロナ禍により経済的困難が継続し、学業を断念せざるを得ない状況もしくはそれに準ずる状況に苦しむ学生に、「学業継続給付金」として次のとおり支援を実施しました。

支援額 6,680万円

〔学業継続給付金〕として1人あたり10万円を支援

学生数 668名

(うち日本人学生437名、留学生231名)

PROJECT

## 03 ウクライナ学生・研究者支援基金 支援実績 5名

令和4年5月に同基金を開設後、多くの皆さまのご支援により、令和4年度末時点で個人・法人の皆さまから164件、総額1千万円を超えるご寄附を頂いております。改めて、厚く御礼申し上げます。支援プログラム立ち上げ後、ウクライナの学生・研究者から150件を超える問い合わせをいただき、令和4年度末時点で留学生3名と研究者2名が来日し、九州大学で活動しています。またこのほか、3名の留学生が来日に向けて調整中という状況です。ウクライナでは依然として厳しい情勢が続いていること、令和5年度以降も新たに学生と研究者を受け入れる予定であることなどを踏まえ、九州大学基金では寄附の募集期間を1年間延長することとしました。今後も困難に直面する学生と研究者を支援できるよう、皆さまのお力を借りながら引き続き努力して参りたいと考えております。

オクサーナ・ウクライネツさん ▶

## 寄附受入実績

件数 164件 金額 10,216,850円



「ウクライナ学生・研究者支援基金」への引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

※支援プログラムへの申請受付は、2022年8月末で終了しています。



ウクライナ学生・研究者支援基金



ウクライナの学生・研究者支援プログラム



ウクライナ学生インタビュー



## PROJECT 04 学生の自主的 アントレプレナーシップ 活動支援 (通称S.I.P)

目標金額 設定なし 募集期間 2023.3~2028.3

学生の自主的アントレプレナーシップ活動支援(通称S.I.P)は、学生自身の社会に対する問題(もしくは課題)意識に基づいた「こんなこと、やりたい!」を支援するものです。

学生の皆さんが、自らの学部・学府で学んだ知識を生かして、より実践的な場でアイデアをカタチにする機会をロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター(QREC)が提供しています。本事業での取り組みを通じて、学生は、自分の有するアイデアや研究が、「社会の課題を解決するものか?」「社会に価値を生み出すものか?」等を検証する機会となります。学生達は、活動の中で、研究室や大学を飛び出し、社会の声に耳を傾け、自分の活動が、社会とどう繋がるのか、社会にどう貢献するのか考え、学ぶことで、自らの大学での学びや研究の社会と繋がりや、大切さを知り、自らのキャリアを考えるきっかけにもなっています。

S.I.Pは、アイデアや研究の段階や方向性によって、3つのプログラムに分けられます。

- 1 アイデア・バトル (通称IB)
- 2 チャレンジ&クリエイション (通称C&C)
- 3 アカデミックチャレンジ (通称AC)

頂いたご寄附は、各プロジェクト実施に係る学生への活動助成や、事業運営に係る費用に使用させていただきます。

2022年度に実施した  
C&Cプログラムに関して  
ご紹介します。

## CHALLENGE & CREATION 2022 チャレンジ& クリエイション C&C

院生・学生自らが若者らしい感性に基づくユニークな研究・調査プロジェクトを企画・計画し、自らが実践することで創造性発揮の喜びを知る機会を提供しています。令和4年度は、多数の応募の中から計6件のプロジェクトが採択されました。特に優秀なプロジェクトとして表彰する「総長賞」では、最優秀賞に1件、優秀賞に3件のプロジェクトが選ばれ、石橋総長から各プロジェクトの代表者に記念の楯と賞状が贈呈されました。



## PROJECT 05 修学支援事業基金

目標金額 1,000万円(年間) 募集期間 2016.10~

特に経済的な支援を要し、学業成績が優秀である学部生を支援するための基金です。1人当たり月額3万円、毎年30名程度を選考し、返済不要の「九州大学修学支援奨学金」を給付しました。



文部科学省認定  
修学支援事業基金  
九州大学修学支援奨学金

## PROJECT 06 産業数学人材育成プロジェクト

目標金額 1,200万円(第一期) 募集期間 2021.5~2026.3

産業界に貢献できる卓越した数学博士人材育成として今年度も企業や学生、教員参加のスタディグループ・ワークショップを実施しました。50名程度の参加者が5、6チームに分かれ、1週間で企業などの課題に取り組み解決を目指すもので、今年度も活発なディスカッションが展開されました。



## PROJECT 07 課外活動における 安全対策等支援基金

目標金額 設定なし 募集期間 2020.12~

課外活動中に起きた学生事故を風化させることなく、将来にわたって安全な課外活動を実施するため、シンボルとなる「課外活動安全の碑」を建立し、安全意識を醸成するとともに、定期的に開催する安全対策講習会、その他課外活動における安全対策の充実・推進事業を実施しています。



## PROJECT 08 ヨット部艇庫建設・活動支援基金

目標金額 2,000万円 募集期間 2016.12~2027.11

九州大学ヨット部OB会「帆友会」が中心となり、九州大学ヨット部の艇庫建設及び部の活動費用支援のための寄附を募るものです。ヨットや救助艇を十分に収納でき、ミーティングや合宿活動ができる安全・安心で機能的な艇庫の建設を目指しています。



## PROJECT 09 教育研究活動における安全管理・ 安全教育活動支援基金

目標金額 設定なし 募集期間 2017.10~

授業実施期間中に本学学生が亡くなった事故を受け、事故の記憶を風化させることなく、教育研究活動における安全の確保、安全教育の充実等を図るために10月1日を「九州大学安全の日」と定め、取組みの一環として、安全管理及び安全教育に関する講演会を毎年開催しています。2022年度は「研究や実験中の事故に関する安全確保」をテーマに講演会を開催しました。



# 施設整備への支援

旧工学部本館



## PROJECT 01 近代建築物の保存活用プロジェクト

目標金額 1億円 募集期間 2022.9～2026.3

今回のプロジェクトの対象である旧工学部本館をはじめとした、箱崎サテライトに現存する近代建築物群(「旧工学部本館(昭和5年建設)」「本部第一庁舎(大正14年建設)」「本部第三庁舎(大正14年建設)」「正門門衛所(大正3年建設)」)が、「造形の模範となっているもの」として令和5年2月、国の登録有形文化財に登録されました。九州大学の所有する建造物では初めての登録有形文化財となります。

旧工学部本館については、新たな学びの拠点としての活用に向け、具体的な建物利用計画を現在進めており、2027年度中の公開活用開始を目指して改修工事を進めていく予定としております。



5月に開催したイベントの様子



伊都標本資料研究・教育ランチ外観

## PROJECT 02 総合研究博物館 箱崎サテライト拠点化事業

目標金額 2,000万円(第一期)  
募集期間 2022.7～2026.9

本事業では、市民に開かれた新しい博物館を目指し、箱崎・伊都それぞれの場所を活かした活動を展開しています。

箱崎サテライトでは、開学記念学内施設公開の一環として、5月の土日4日間に通常非公開エリアも含めて開館し、600名を超える多くの方々にご来館いただきました。

また、伊都キャンパスでは「伊都標本資料研究・教育ランチ」が竣工し、現在、施設内部の整備を行っています。2024年2月17日には、博物館公開講演会「フィールドの学—古生物学と考古学—」開催に合わせて、当該施設のお披露目を開催予定です。是非お越しください!



## PROJECT 03 伊都キャンパス 植樹プロジェクト

目標金額 1,000万円  
募集期間 2016.3～

九州大学のメインキャンパスである伊都キャンパスは、皆さまのご寄附により少しずつ緑が増えてまいりました。

2022年度は、ジンダイアケボノザクラとソメイヨシノの2品種9本の植樹を行うことができました。

植樹により現在169本が育っておりますが、暑さが続き細やかな管理が必要です。

## PROJECT 04 九州大学デジタル 資料整備事業

目標金額 1,000万円  
募集期間 2021.4～2026.3

2022年度は、いただいたご寄附により、第59回附属図書館貴重文物展示・講演会(第46回貴重文物講習会)「17世紀の日欧交流における医学と医療」を開催しました。

展示会は、本学名誉教授ヴォルフガング・ミヒェル氏により蒐集された医学・薬学・本草学関連の古書群(ミヒェル文庫)を中心とした東西の写本・版本を通して17世紀の医学交流の軌跡をたどるという構成で、約50点の資料を展示しました。現物の展示とともに、ミヒェル文庫の資料ほか約30点を新たにデジタル化して電子展示としても公開しました。

講演会では、展示監修も務めていただいたヴォルフガング・ミヒェル氏に、数多くの東西の版本・写本を蒐集し読み解く中で明らかになった、17世紀のヨーロッパと日本の医学交流の軌跡についてご講演いただきました。今後も、本学の貴重な資料の保存・活用をすすめてまいります。



貴重な資料が並ぶ医学図書館展示室

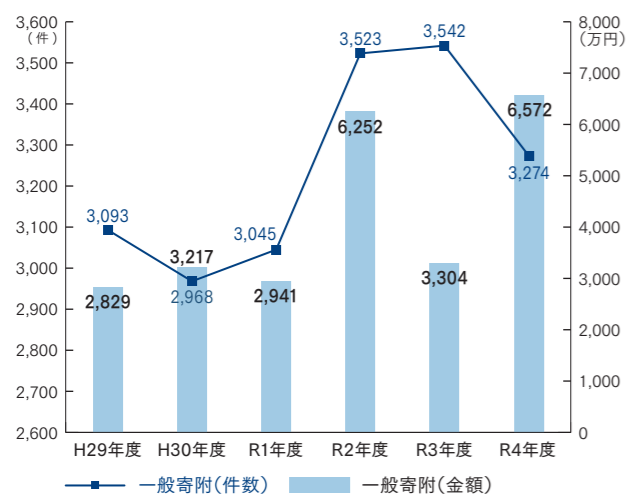


講演会は対面・オンラインのハイブリッド形式で開催

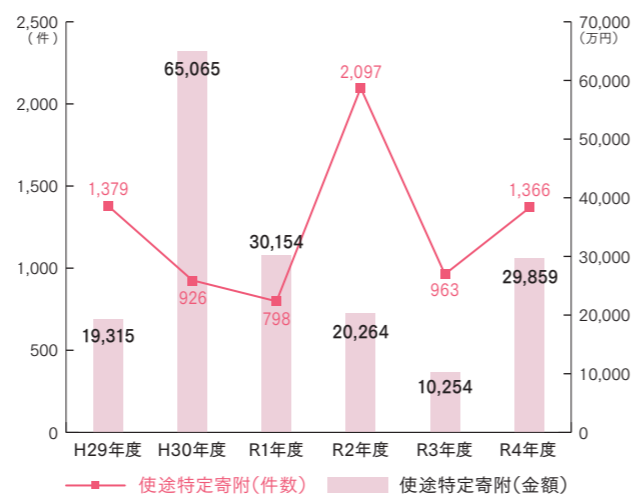


# 九州大学基金 これまでの寄附実績

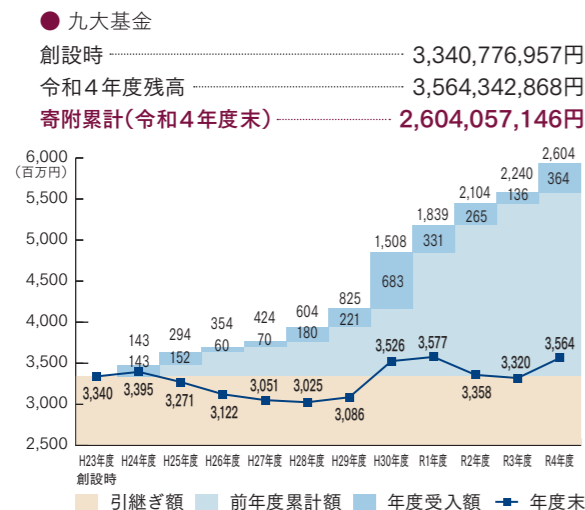
## ■ 一般寄附の件数・金額の推移



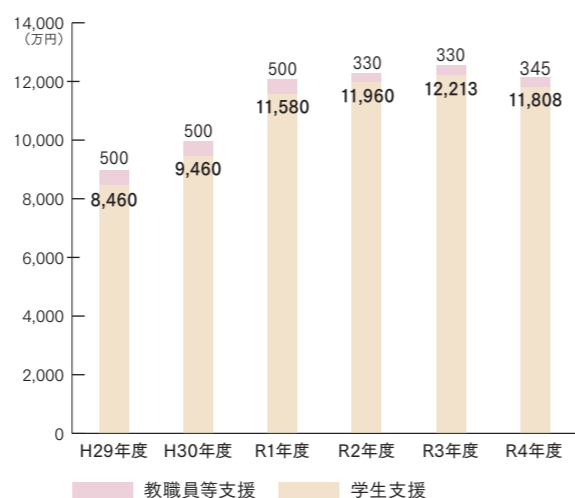
## ■ 用途特定寄附の件数・金額の推移



## ■ 九大基金寄附額累計及び年度末保有額



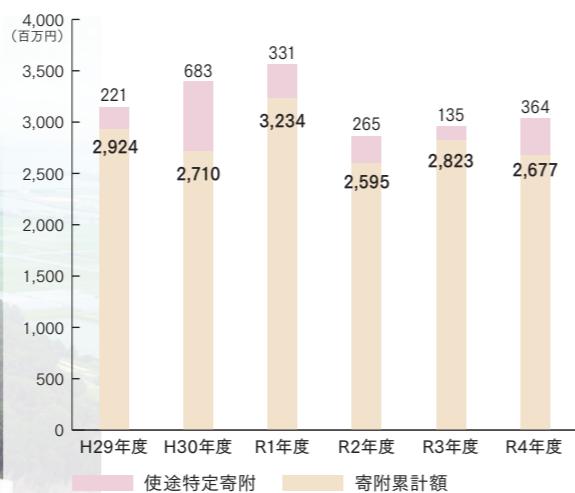
## ■ 支援助成事業支援額



## 九州大学全体の寄附

九州大学では、毎年約30億円を企業や個人の方に、学術研究や教育の充実のためにご寄附いただいています。

## ■ 寄附金受入額の推移



# 九大会員のご案内

## 九大会員とは？

- 01 1回1万円以上もしくは継続年2,000円以上の九大基金へのご寄附者はどなたでも会員になれます。
- 02 会員資格は無期限(寄附額に応じて会員証を発行します。会員証有効期限は5年間です。)
- 03 カード提示により提携先約90社から100種類以上の特典が受けられます。

九州大学基金では、クレジットカード決済により年額2千円以上を継続的にご寄附くださる方、又は単回1万円以上をご寄附くださる方への会員制度を実施しており、令和4年度末現在、約7,000人の会員の皆様がいっぱいます。

今後も、皆様とよりよいネットワークを築き、社会とともに発展する大学をめざして参ります。

## 九大会員の階層と名称は3種類！

### 九大会員

会員証カラー 九大ワインレッド

累計寄附額 1万円以上

### 貢献会員

会員証カラー シルバー

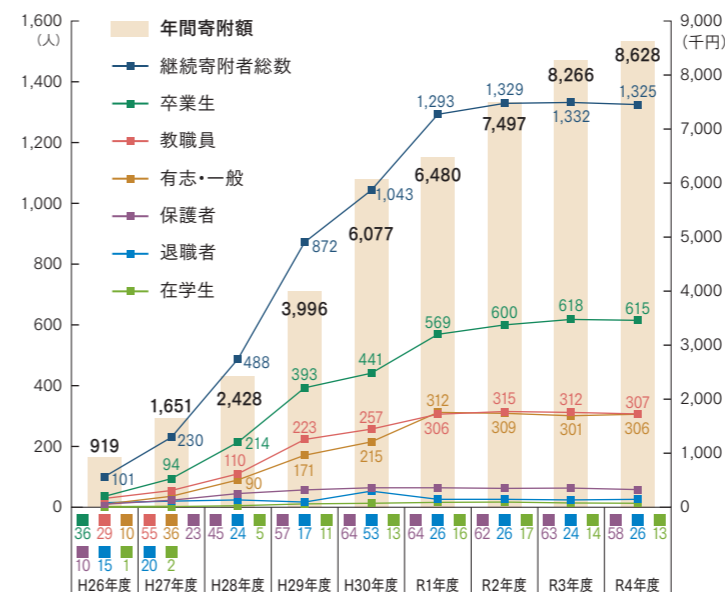
累計寄附額 10万円以上

### 名誉会員

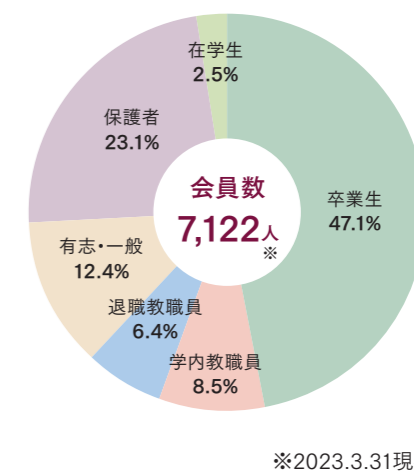
会員証カラー ゴールド

累計寄附額 50万円以上

## ■ 継続寄附者及び年間寄附額推移



## ■ 九大会員 会員属性



九大会員特典の詳細はホームページをご覧ください。

九州大学基金